

平成27年度「瀬戸内タウンミーティング」対応状況(平成27年9月6日中央公民館(邑久)開催)

担当課・室	地区	ご意見の要旨	市長の回答	対応状況
企画振興課	邑久	いこいの村はあまり料理がおいしくない。他の県のいこいの村は安くておいしいし、PRもできている。そういうPRがないのではないかと。	いこいの村の食事の件だが、担当課から事業者伝えてもらう。市の施設を指定管理者である民間の事業者が管理しているので、今後考えなければならぬ。事業者がどういうサービスをしているのか、外の目から年1回など節目に評価をして、伝えるような仕組みも考えてもいいのではないかと。今は問題がなければそのまま指定を更新しているので、適度な緊張関係をつくり、品質の向上にどうつなげていくのかというのが、全体的な課題であると思っている。	今回のご意見を受けまして、料理につきましては、素材の味が最も引き立つ方法で提供することを創意工夫し、その満足度をあげるよう努力することを指示しました。また、PRについては、実施したことに対して最大限の効果が得られるよう、営業先、利用するPR媒体の精査を行うことを助言しました。それとともに、利用者にまた来たい施設だと思っていただくべく、常におもてなしの心を持って接すること、そのために、社員の意識を再徹底することを指導しました。
危機管理課	邑久	二年ほど前、牛窓地区で大々的な防災訓練を行っていたが、最近行われていないので、また復活してほしい。	防災訓練は、毎年、関東大震災が起きた日の9月1日に行っており、先日もゆめトピア長船で行っている。地域の住民の方を中心に案内しているので、案内が届いていないのかなと思う。地域の住民の方だけでなく、幅広く訓練の参加を呼びかけていく必要があるかと思うので、情報が伝わるように検討したい。	2年前に実施した「牛窓まちなか防災訓練」は公民館事業の一環として実施したものです。この訓練は国庫補助事業で実施し、一度限りの防災訓練でした。本市としましては、毎年9月1日前後の日曜日に総合防災訓練を実施しています。これは牛窓、邑久、長船地区を巡回し実施しており、平成27年度には第9回を実施しました。平成26年度は邑久町虫明地区、平成27年度は長船町地区で実施しました。平成28年度は牛窓町長浜地区で実施する予定です。他地区の訓練であっても参加することは可能ですので、ぜひ訓練にご参加ください。
総務学務課、消防本部	邑久	防災のものは自分で用意しないといけないので、ライフジャケットを注文しているのだが、そういうものは小・中・高校の子どもにも身に付けてもらえたらと思う。	ライフジャケットについて、水害のときだけではなく、水難事故などの事故防止のためのライフジャケットの着用は慣れた方がいいという観点もあると思う。今、市全体で、ライフジャケットの使い方を講習などややっていないと思うので、学校や消防とも相談しながら、どれだけの必要性があるかも含めて検討したい。	(総務学務課) 災害対策で大事なことは事前に備えるということです。学校の方でも、施設の耐震補強やガラスに飛散防止のフィルムを張ったり、棚を固定したりして対策を進めています。また、防災用品の充実についても、危機管理課と連携して進めていきたいと考えています。ご意見いただきましたライフジャケットにつきましては、地域ごとで予想される災害も踏まえた上で、必要性について検討していきたいと考えています。  (消防本部警防課) 水害時等に自主避難をする際、道路、水路、水田など境目が分からない場合に、避難者自らがライフジャケットを着用していれば、より安全な避難行動ができます。ライフジャケットの着用方法など分からない場合は、消防本部に依頼していただければ行います。
危機管理課	邑久	大規模災害が起こった際、他の市町村との協力体制があるのか。	災害の連携については、岡山県下の市町村とは連携をしている。しかし、他県との連携も考えなければならぬ。関西の自治体は、阪神大震災を教訓に、災害時に連携する自治体を選んでいくという事例がある。瀬戸内市も、原発事故が起こったときには、どこの住民を受け入れるかというは行っている。着実に少しずつ連携先は作っている。さらに検討していきたい。また、自治体間だけでなく、建築業界、市内の介護施設、地元企業、飲料メーカーなどいろんな団体と協定、連携を積極的に行っている。連携を結ぶだけでなく、これからも連携、協力体制を維持していくことが大切だと思う。	岡山県及び県内27市町村で災害時相互応援を平成26年7月に締結しています。この協定は、被災市町村の要請に応じ、応援を迅速かつ円滑に実施することを目的に締結されました。また、全国ハンセン病療養所所在地市町11市町と相互支援の合意をしています。その他には中国電力、郵便局、農協、漁協等、多くの民間事業者との災害時における協定を締結し、いざというときに備えています。
企画振興課	邑久	牛窓地域への公共交通の問題について、学生としても交通の便がよければと思う。これから市民を呼ぶのも、今後は若者が国を支えていくと思うので、高齢者向けのサービスばかりでなく、若者向けのサービスを充実することを考えてはどうか。	牛窓の交通の便について、バスで通学しようと思っても便が少ないということはあると思うので、少なくとも邑久高校に簡単に通えるようにする、という視点も忘れずに考える必要がある。今、公共交通は高齢者を中心に、病院、買い物に行くことを中心に見ているが、免許のない若い人、子どもたちが、どうやって地域で夢を描いていけるかもあわせて考えていく必要があると思う。高校生の皆さんとも意見交換をしながら考えていけたらと思う。	市では、今年度、市地域公共交通会議と連携し、「公共交通網形成計画」を策定しています。市民、交通事業者、行政の三者が協力して策定するこの計画の目的は、市内に点在する交通不便地域の解消と、高齢者や学生等で運転免許を持たない方(いわゆる交通弱者)の移動手段を確保することです。計画策定に関する調査として、邑久高校の生徒、保護者の皆さんを対象としたアンケート調査を実施し、通学の負担やニーズについて把握することができました。これらの調査結果を踏まえ、学生の利便性向上にもつながる計画を策定し、持続可能な公共交通網の整備を推進します。